

令和 5 年 6 月 21 日現在

機関番号：33111

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2022

課題番号：18K10490

研究課題名(和文) 助産師のワーク・エンゲイジメントを基盤にした妊娠中期中絶ケア教育モデルの開発

研究課題名(英文) Development of second trimester abortion care education model based on midwives' work engagement

研究代表者

下山 博子 (SHIMOYAMA, HIROKO)

新潟医療福祉大学・看護学部・教授

研究者番号：60434461

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,600,000円

研究成果の概要(和文)：中期中絶ケアの実態とワーク・エンゲイジメントとの関連要因について調査し、専門職としての仕事であるとの認識が、ワーク・エンゲイジメントに影響することが示唆された。ケアへの積極性には、助産師、看護管理職、経験年数が影響していた。しかし、これらの要因によるワーク・エンゲイジメントに悪影響となる体験も多い可能性から、ケア経験内容を重視し、質的調査を実施した。中期中絶ケアの教育内容には、助産師の専門的役割を意識してケアができるようになることと看護管理者によるサポートの構築が必要である。ワーク・エンゲイジメントを高める教育モデルは、中絶ケアに対する積極的な態度を強化することができることが示唆された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

中期中絶ケアに対する意識とワーク・エンゲイジメントとの関連から助産師への教育モデルを開発することは、助産師への教育的支援としてだけでなく、助産師の専門性の拡大につながる可能性があり、その波及効果として、女性が安心して安全な医療をうけるための支援ともなる。

研究成果の概要(英文)：The study investigated the reality of second trimester abortion care by nursing professionals and factors associated with work engagement. It was suggested that the perception that second trimester abortion care is the professional work of midwives influences work engagement. Midwife, nursing administrative position, and years of experience influenced positive attitude toward second trimester abortion care. However, it is possible that many of these factors also experience negative effects on work engagement. Therefore, it was necessary to focus on the content of the experience in care, and a qualitative study was conducted. Education and training in second trimester abortion care for midwives should include an awareness of their professional role in providing care and a system that allows them to receive support from nursing administrators. An educational model that enhances work engagement was thought to strengthen positive attitudes toward abortion care.

研究分野：看護学

キーワード：助産師 ワーク・エンゲイジメント 妊娠中期中絶

様式 C-19、F-19-1、Z-19（共通）

1. 研究開始当初の背景

わが国における人工妊娠中絶は年々減少傾向を示しているものの、約 100 万の出生数に対し約 17 万 6000 件（平成 27 年度）あり、理由の多くは「望まない妊娠」で、そのほとんどは妊娠初期に行なわれる。しかし、近年の出生前診断技術の向上と普及に伴い、「望んだ妊娠」であっても胎児異常等の理由により、妊娠継続を見送る選択をする場合が生じている。

人工妊娠中絶手術をうけた女性の健康問題については、罪悪感などの心理的ストレスを抱えたり、PTSD を発症するなど、これまで多くの報告がある。一方、中絶ケアにあたった看護師側の問題については、胎児への思いや職業観に対する苦悩を抱えながら業務を遂行し、PTSD のハイリスク群に分類される看護師がいた報告がある（水野、2016）。しかし、中期中絶にかかわる助産師への影響に関する研究は少なく、助産師のメンタルヘルスやワークライフに影響を及ぼしかねない体験をしていることが明らかになっているものの（下山、2010）、これらの解決には至っていない。助産師が中期中絶ケアの中で抱えるこれらの問題は、助産師の職務満足度やワーク・エンゲイジメントに影響する可能性があり、助産師への支援に向けた早急な問題解決が必要である。ワーク・エンゲイジメントは就労者の健康と組織パフォーマンスを促進する要因であり、ワーク・エンゲイジメントの向上は、看護師のうつ症状などの心身的症状の軽減や組織の効率性、ケアの質の向上に寄与する（阪井、2012）。

人工妊娠中絶における看護ケアは消極的な看護となりやすく（大久保、2002）、助産師は中期中絶ケアの困難感を感じている（下山、2010）。その背景として、周産期の看護は産むことを前提にした妊娠・出産する女性を対象としたケアが中心であり、リプロダクティブ・ヘルス/ライツに基づいた女性の自己決定権や看護における倫理的問題に関連した教育はなされているものの、人工妊娠中絶の医療的処置に関連する看護については十分な教育がおこなわれてはいることがあげられる。中期中絶にかかわる助産師は、分娩介助技術を参考にした経験知により試行錯誤しながらケアしていると想像できる。このように助産師がどのような中期中絶ケアを行なっているのかは明らかにされておらず、中期中絶ケアに対して助産師の専門性が発揮できていないという思いは、ワーク・エンゲイジメントに影響を及ぼす要因にもなると考えられる。

以上のことから、本研究課題は、中期中絶ケアを行う助産師のワーク・エンゲイジメントへの影響を意図し、助産師への教育的支援としての中期中絶ケア教育モデルの提案を目的とした。

2. 研究の目的

- (1) 助産師がおこなう中期中絶ケアの実態と中期中絶にかかわった助産師のワーク・エンゲイジメントとの関連要因を明らかにする
- (2) 中期中絶ケアを行う助産師のワーク・エンゲイジメントに影響する要因について臨床現場における体験（適合性）を質的に分析し、評価する
- (3) 助産師の教育的支援としての中期中絶ケア教育モデルを提案する

3. 研究の方法

- (1) 助産師が行う中期中絶ケアに関する実態調査

全国の病院・診療所就業看護職約 2000 名を対象に質問紙調査を実施する。調査内容は、属性、中期中絶ケアの経験の有無と回数、経験した中期中絶の背景、中期中絶ケアの環境と内容、ワーク・エンゲイジメント、職務満足度、専門職の QOL、中期中絶に対する意識と態度、中期中絶ケアに関する認識の内容、必要とするサポート等である。

- (2) 中期中絶ケアを行う助産師のワーク・エンゲイジメントに関連する要因の統計学的分析

(3) ワーク・エンゲイジメントに影響する中期中絶ケアにおける体験の質的調査

病院・診療所に就業している助産師 10 名を対象にインタビューガイドを用いた半構造化面接法による調査を実施する。

4. 研究成果

(1) 中期中絶ケアに関する実態調査

全国の分娩取り扱いのある産婦人科 500 施設 1000 名の看護職者（助産師、看護師、准看護師）に無記名自記式質問紙を配布し郵送回収した。対象の属性に関する項目の記述統計、「日本語版ユトレヒト・ワーク・エンゲイジメント尺度短縮版 (UWES-J)」「専門職の QOL：共感満足と共感疲労尺度第 5 版 (ProQOL-J-V)」「病院勤務の看護師を対象にした職業における満足度」の各項目の平均値と標準偏差、相関係数を算出した。各尺度スコアの変数による違いの分析には、t 検定、一元配置分散分析、多重比較 (Tukey HSD)、中期中絶ケアに対する意識に関連する要因の分析にはロジスティック回帰分析をおこなった。統計的有意水準は 5%とした。なお、本研究は新潟医療福祉大学倫理審査委員会の承認を得て実施した。

日本国内の中期中絶にかかわる看護職者における看護の役割に対する意識、仕事のストレスとしての共感性疲労および仕事の資源と個人の資源とワーク・エンゲイジメントとの関連について検討し、助産師のワーク・エンゲイジメントとその影響要因を抽出した。

①中期中絶にかかわる助産師のワーク・エンゲイジメントとその影響要因

看護職者 266 名より調査票を回収し(回収率 26.6%)、有効回答者 261 名(有効回答率 98.1%)のうち中期中絶の介助にかかわった経験がある助産師 205 名 (86.9%) を分析対象者とした。

平均年齢は 42.8±10.10 歳、経験年数は 19.6±9.51 年、中期中絶介助にかかわった例数は、1～5 例が 67 名 (32.7%)、6～9 例 48 名 (23.4%)、10～29 例 56 名 (27.3%)、30 例以上 32 名 (15.6%) であった。ワーク・エンゲイジメントは 30.6±10.33 点で、専門職の QOL の下位尺度「共感性満足」34.22±6.16 点、「バーンアウト」26.8±6.10 点、「共感性疲労／二次的トラウマ」21.3±4.98 点、職務満足度は 157.9±30.54 点であった。ワーク・エンゲイジメントと「共感性満足」・職務満足度・その下位尺度には有意な正の相関がみられ、「バーンアウト」・「共感性疲労／二次的トラウマ」には有意な負の相関がみられた。また、「共感性満足」と職務満足度・「看護業務」を除く下位尺度には有意な正の相関、「バーンアウト」と職務満足度・その下位尺度には有意な負の相関、「トラウマ／共感性疲労」と職務満足度・「給料」を除く下位尺度に有意な負の相関がみられた。

中期中絶のケアにかかわる助産師の WE と専門職の QOL、職務満足度の間には有意な相関関係が示された。ワーク・エンゲイジメントは平均的なレベルであったが、職場の支援体制を整え、中期中絶のケアにかかわる職務上のストレスを軽減する介入によって、ワーク・エンゲイジメントが高まる可能性が示唆された。

②看護の役割に対する意識とワーク・エンゲイジメント、専門職の QOL、職務満足度との関連

看護職者 266 名より調査票を回収し (回収率 26.6%)、261 名から有効回答が得られた (有効回答率 98.1%)。このうち中期中絶の介助の経験がある 236 名 (90.4%) を分析対象者とした。中期中絶のケアに対する意識のうち、「中期中絶であっても看護師・助産師ならではのケアがあると思う」159 名 (67.4%)、「積極的に中期中絶の介助にかかわっていききたいと思う」11 名 (4.7%) と回答した者をケアに対して「積極的群」とし、「中期中絶の介助は自分の信念に反するので、できれば関わりたくない」36 名 (15.3%)、「中期中絶の介助は難しいので、できれば関わりた

くない」21名(8.9%)、「中期中絶の介助は看護師・助産師のやるべき業務ではないと思う」3名(1.3%)と回答した者をケアに対して「消極的群」とした。

中期中絶ケアに対する意識に関連する要因について、変数間の影響を除外して検討するために、二項ロジスティック回帰分析を変数減少法(尤度比)で行った。ケアに対する意識を目的変数とし、ワーク・エンゲイジメント、ProQOLの下位尺度、職務満足度およびその下位尺度と属性(年齢、経験年数、職種、役職、勤務施設)を説明変数とした。積極的群の背景要因として、助産師であること(odds ratio;OR=2.884)と看護管理職であること(OR=2.849)、経験年数が長いこと(OR=1.18)があげられた。また、年齢(OR=0.855)、給料に満足していること(OR=1.049)とProQOLの「共感性疲労/二次的トラウマ」(OR=0.911)との関連性も強かった。(Table1)

Table 1. Results of logistic regression analysis with attitudes toward second trimester abortion care as the dependent variable

	B	SE	P value
Compassion Fatigue / Secondary Trauma	-0.093	0.037	0.012
Job satisfaction "Pay"	0.048	0.022	0.031
Age	-0.157	0.047	0.001
Years of experience	0.138	0.051	0.007
Position in work institution (nursing administrative position)	1.047	0.493	0.034
Nursing occupation (midwife)	1.059	0.511	0.038

backward elimination (likelihood ratio), χ^2 test of model: $p < 0.05$

Hosmer-Lemeshow test: $P=0.894$, percentage of correct classifications: 79.2%, $R^2=0.221$

ワーク・エンゲイジメントは、中期中絶における看護の役割意識によって差があり、中期中絶ケアに対する役割意識は、中絶にかかわることであっても有意義な仕事であるとし、誇りをもって仕事をする事、また、困難な出来事に直面した場合でも、心理的な強さを発揮できるかに影響していることが示唆された。専門職としての仕事としてとらえ、役割があると認識していることは、ワーク・エンゲイジメントに影響していた。

中期中絶ケアに対する意識に影響する予測因子は、職種、役職、経験年数であり、ケアに対して積極的な意識には、助産師であること、看護管理職であること、経験年数が長いことがあげられた。中期中絶のケアは分娩時のケアを参考に試行錯誤しながら行っている(下山 2010)。そのため、助産師として分娩にかかわる専門的知識と女性を尊重する意識が高いことが推測される。また、看護管理者は専門的分野にかかわる経験年数も長く、中期中絶をうける女性の苦悩や中絶された児との体験の中で看護の役割を見出し、中期中絶ケアに対する積極的な意識が形成されていると考えられる。先行研究では中絶ケア経験が1年未満の医療従事者は「共感性満足」が高く、ケア経験の長さ「共感性満足」の間には「用量応答」関係があり、経験年数が長ければ中絶ケアの提供により多くの悪影響を経験している可能性があるという報告(Mantshi E.Teffoら 2018)もある。そのため、中期中絶ケアの経験だけでなく、その体験内容を重視していくことが必要であることが示唆された。

(2) 助産師のワーク・エンゲイジメントと中期中絶ケアに関する質的調査

①ワーク・エンゲイジメントに影響する中期中絶ケアにおける体験の適合性

量的調査研究により明らかになった看護管理者による支援の重要性と仕事の満足度を高めることによってバーンアウトを防ぐ可能性については、看護管理者からの仕事に対する肯定的なフィードバックや承認があることや中絶のケアに偏らない仕事の配置をすることによって、職務満足度が高まっていた。また、中絶にかかわることであっても有意義な仕事であるとし誇りをもって仕事をする、困難な出来事に直面した場合でも心理的な強さを発揮できるかがワーク・エンゲイジメントに影響している可能性については、経験年数があるほど多くの中期中絶をうける女性の苦悩や中絶された児への思いを体験しているが、中期中絶ケアをすることに対しての満足感やケアに貢献できたという感覚によって、専門職としての仕事としてとらえ、役割があるという認識につながっており、中期中絶ケアに対する積極的な意識が形成されていた。

②中期中絶ケア教育モデルの提案

助産師のための中期中絶ケアのトレーニングには、1. 助産師の専門職としての役割を意識してケアができるようにすること、2. 看護管理者におけるサポートシステムを構築することが必要であり、ワーク・エンゲイジメントを高める教育モデルは、中絶ケアに対する積極的な態度を強化することができると思われる。

<引用・参考文献>

水野真希 人工妊娠中絶ケアに携わる看護者のトラウマによる心理的反応とその関連要因 女性心身医学 Vol.20,No3,P294-301.2016.

下山博子 妊娠中期に人工妊娠中絶をうける女性とその家族にかかわる看護者の体験 母性衛生 Vol.50,No.4,P602-610.2010.

阪井万裕他 看護師のワーク・エンゲイジメントに関する文献レビュー 日本看護科学学会誌 Vol.32,No.4,p71-78.2012.

大久保美保 人工妊娠中絶をした女性のケアー看護・助産色の調査からー 齋藤有紀子編 母体保護法とわたしたち 明石書店 p123-140.2002.

Teffo ME, Levin J, Rispel LC. Compassion satisfaction, burnout and secondary traumatic stress among termination of pregnancy providers in two South African provinces. J. Obstet. Gynaecol. Res. 2018; 44(7):1202-1210.

Hiroko S, Yasuko T. Factors associated with nursing professionals' attitudes toward abortion care. Niigata Journal of Health and Welfare.2021; 21(1):25-37.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 Hiroko Shimoyama, Yasuko Tsukamoto	4. 巻 21(1)
2. 論文標題 Factors associated with nursing professionals' attitudes toward abortion care	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Niigata Journal of Health and Welfare	6. 最初と最後の頁 25-37
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.34540/niigatajohewe.21.1_25	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 下山 博子、塚本 康子
2. 発表標題 中期中絶のケアにかかわる助産師のワーク・エンゲイジメントと専門職のQOL、職務満足度との関係
3. 学会等名 日本助産学会
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	塚本 康子 (TSUKAMOTO YASUKO) (60310554)	新潟医療福祉大学・看護学部・研究員 (33111)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------